

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	5964	担当課等	社会教育課								
事務事業名	音楽会開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P130 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(1) 生涯学習推進体制の整備	② 自主的な文化活動の活性化				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	町民の音楽に対する意識の高揚と、町民同士の交流を図る、								
対象	町民								
内容	合唱や演奏などの活動を行うサークルの発表の場として、また、プロによる音楽を鑑賞する場として年に1回、音楽会を開催する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	368,373	346,658	52,000	
コスト 人件費	常勤職員	299,710	301,560	170,120	
	非常勤職員等	15,296	15,728	15,728	
	人件費合計	315,006	317,288	185,848	
	総事業費	683,379	663,946	237,848	
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源	174,000	154,000	0	
	一般財源	509,379	509,946	237,848	
財源合計	683,379	663,946	237,848		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
音楽会開催日数	交流の機会設定	日	2	2	1
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加者数	音楽による交流人数	人	350	320	150

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	実行委員会の組織づくりや事業の準備運営、PRをするに当たり町の支援が必要である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	PR強化や開催日の調整により参加者を増やす余地があると思われる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	湯河原の音楽に触れる機会として町民の文化意識高揚に効果を上げている。ただし、参加者の高齢化が進む中で、若い世代の参加を増やすことが課題。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	町民全体を対象とし、幅広く参加可能。

平成30年度までの自己評価または改善点	限られた人的資源のなかでより大きな効果を得るため、プロの部については実施方針を検討することとし、サークルの部については周知活動を強化することとした。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	2	音楽サークルなどに所属する町民の参画により実施している。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	サークルの部は新たな若い世代の出演団体を募集しつつ継続し、プロの部については、令和元年度は実施を見送り、数年おきの開催とする予定である。	
令和2年度以降の方向性	実行委員会による運営の推進と、音楽会への参加者の募集及び観覧者の増加。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	5983	担当課等	社会教育課								
事務事業名	文化祭開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P130 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(1) 生涯学習推進体制の整備	(2) 自主的な文化活動の活性化				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	芸術・文化の各分野で活動している各種文化団体などが日頃の成果を発表する場を設けることにより、文化活動への参加意欲と団体間の交流を深め、町の文化の振興・発展を図る。								
対象	各種団体等								
内容	毎年10月～11月の2か月間、図書館や観光会館などを会場として、各団体の活動の発表の場を提供する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	358,912	362,788	349,000		
	人件費					
	常勤職員	137,866	138,718	142,283		
	非常勤職員等	22,944	23,592	23,592		
	人件費合計	160,810	162,310	165,875		
	総事業費	519,722	525,098	514,875		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	519,722	525,098	514,875		
	財源合計	519,722	525,098	514,875		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
文化祭実行委員会議回数		交流機会の回数	回	3	3	3
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
文化祭参加団体数		文化の振興・発展した団体数	件	15	13	13

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	文化の香り高い町を目指すため、町の積極的な支援が必要。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	多くの参加団体の活発な発表等による文化の発展、振興が図られている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	町民の文化意識向上に大きく寄与しているが、来場者の増加が課題である。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	広く全町に周知PRし、参加団体の呼びかけを行っている。
平成30年度までの自己評価または改善点	参加団体に交付する協賛金の算定において、各団体の文化祭参加経費に対する自己負担の割合等を把握するため、各団体から事業計画、予算等の資料提出を求めている。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	2 町内で活動する各種文化団体、サークル等の発表の場づくりであり、委託に適さない。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	参加者の高齢化により、展示パネルの設置など準備の負担が少なくなるよう日程等に配慮するほか、新たに完成した防災コミュニティセンターの利用も各団体で検討する。
令和2年度以降の方向性	新たな参加団体の発掘に力を注ぎ、若い世代を含め、本町の特色のある文化振興を目指し、事業を継続する。また発表の場となる会場について、負担軽減のための複数団体の共同展示など今後の方策を検討する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	5999	担当課等	社会教育課								
事務事業名	家庭教育学級開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P122 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	1 家庭教育	(1) 家庭の教育力の向上	① 学習機会の充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	社会の変化とともに、家族や子供を取り巻く環境が様々に変容する中で、家庭教育のあり方やこれからの時代を生きる子供達の子育てについて理解を深め、各家庭の教育力を高める。								
対象	保育園児、幼稚園児、小学生及び中学生の保護者及び関心のある方								
内容	家庭教育及び人権教育に係る講義等を年数回開催するもの。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	163,100	90,176	94,000		
	人件費					
	常勤職員	21,270	21,401	21,951		
	非常勤職員等	34,416	34,902	35,388		
	人件費合計	55,686	56,303	57,339		
	総事業費	218,786	146,479	151,339		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	218,786	146,479	151,339		
	財源合計	218,786	146,479	151,339		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
家庭教育学級実施回数		参加機会の提供	回	4	4	4
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加人数		子育ての理解を高める	人	237	272	250

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	生涯学習の一環として家庭教育について学ぶ機会を提供するため、町が実施すべきである。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	就学後の児童の子育てに対する様々な内容の講義は他の事業にはなく、参加者が子育てに対し理解を深め、考えるきっかけとなっている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	専門知識をもつ講師の選定により幅広い知識の習得ができる。また、子育てに対する多角的な考えが身についている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	各学校や保育園、幼稚園また広報などを通じて幅広く参加の募集を行っている。
平成30年度までの自己評価または改善点	できるだけ受講対象者が受講しやすい時期、時間帯となるよう開催時期を調整した。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)			
委託・指定管理導入の可能性	2	内容は主に年4回の講演会開催であり、各学校、幼稚園、保育園の保護者等の協力で実施しているため、委託は不要と考えられる。	
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	従来の開催回数にとらわれず、限られたコストで魅力的な講師を招聘し充実した内容で計画した。なお、平成30年度から4回のうち1回を公務員等の講師謝礼の必要のない講師による講演を実施している。また従来子育て学級として開催していた乳幼児期の子育てについても講義に取り入れ、参加者が自ら学ぶ機会として活用できる内容とする。		
令和2年度以降の方向性	開催時間中のエプロンママによる託児を継続し、参加しやすい環境を整える。		

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6006	担当課等	社会教育課								
事務事業名	子育て学級開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P122 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	1 家庭教育	(1) 家庭の教育力の向上	① 学習機会の充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	乳幼児期の子育てについて保護者が理解を深め、参加者の交流機会づくりにより、子育て中の不安や悩みを軽減し、安心してのびのびと子育てができるようにする。								
対象	0歳児から就園前の幼児の保護者								
内容	子育てに関する様々な課題をテーマに、年数回、講演等を開催する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	22,992				
	人件費	29,971				
	常勤職員	29,971				
	非常勤職員等					
	人件費合計	29,971	0	0	0	
	総事業費	52,963	0	0	0	
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	52,963	0	0	0	
	財源合計	52,963	0	0	0	
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
開催回数		参加機会の提供	回	4		
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加者数		子育ての理解を高める	人	43		

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	生涯学習の一環として家庭教育について学ぶ機会を提供するため、町が実施すべきである。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	乳幼児期における子育てに対し理解を深め考える機会となっている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	講演により参加者への意識付けは高まっているが、参加者がなかなか増加しないため。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	広報等により、幅広く募集を行っている。また、エプロンママの託児の活用などにより、子どもを預けられない保護者も参加できるようにしている。
平成30年度までの自己評価または改善点	受講対象者が受講しやすい時間帯とし、託児を依頼するエプロンママとの調整を踏まえて日時を設定している。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	2 主に乳幼児の母親等を対象とし、保健センターの支援のもと実施しており、委託は不要と考えられる。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし。
令和2年度以降の方向性	開催時間中のエプロンママによる託児を継続し、受講生が参加しやすい環境を整える。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

家庭教育学級開催事業と統合する。

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(見直し)
------	---------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6013	担当課等	社会教育課								
事務事業名	自然科学・歴史文化探訪事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P130 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(2) 生涯学習内容の充実	① 多様なライフスタイルに対応した学習プログラムの作成				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	郷土の豊かな自然や文化財に興味や関心を深める機会をつくり、湯河原の特色を生かしたまちづくりにつなげる。								
対象	町民								
内容	各種観察会(ツバメや野鳥、海のプランクトン、野山の植物)、天体観察、地域の歴史と文化施設などの訪ね歩きの実施。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	572,062	73,008	103,000		
	人件費	29,971	30,156	30,931		
	非常勤職員等					
	人件費合計	29,971	30,156	30,931		
	総事業費	602,033	103,164	133,931		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源	4,800	3,900	6,000		
	一般財源	597,233	99,264	127,931		
	財源合計	602,033	103,164	133,931		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
開催回数		参加機会の確保	回	5	5	5
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加者数		学習機会の提供	人	89	91	100

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 多様な生涯学習に対応し、幅広い世代に興味を持ってもらうために、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 直接自然や文化財に触れられる事業は他に類似がなく、参加者に関心を持つきっかけとなっている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 事業に参加したことで、知識を深め郷土の自然に関心を深める機会となっている。子どもの減少に伴い、参加者が募集定員に達しない場合がある。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 地方紙や町広報誌のほか、町内学校での事業広報により参加募集を行っている。
平成30年度までの自己評価または改善点	各種講座は親子のふれあいと学習を兼ねた機会として定着し、ほぼ定員で実施している。平成28年度に事業の収支透明化のため、参加費の歳入や材料費の支出などを予算化した。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	2	個別の事業ごとにジャンルや方向性が異なり、同一事業として委託は困難である。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	天体観察会については、従来の望遠鏡キットの製作を含めた方式では購入費用がかかり参加者の負担となるため、商工会が所有する大型望遠鏡を借用するなど、より多くの親子が天体の観察に興味を持って参加いただける環境を整える。	
令和2年度以降の方向性	将来を担う児童がふるさと湯河原の自然環境を知り、また親子のふれあいにより家庭教育の機会となる事業として、各講座の内容充実や見直しを進める。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6031	担当課等	社会教育課								
事務事業名	生涯学習推進員養成事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P130 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(1) 生涯学習推進体制の整備	⑤ 社会教育団体と指導者の育成				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
								○	
目的	町の生涯学習を推進するリーダーを養成し、地域会館の活用や地域の住民が自ら学ぶ機会を醸成する。								
対象	湯河原町生涯学習推進員								
内容	生涯学習推進委員のスキルを高めるための研修講座や情報交換会等を開催する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	35,000	35,000	50,000	
コスト 人件費	常勤職員	29,971	30,156	30,931	
	非常勤職員等				
	人件費合計	29,971	30,156	30,931	
総事業費	64,971	65,156	80,931		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	64,971	65,156	80,931	
財源合計	64,971	65,156	80,931		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
研修開催回数	研修機会の提供	回	1	1	1
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加者数	交流・学習機会の提供	人	5	5	8

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	地域会館活用事業において中心的な役割を担う生涯学習推進員の養成のため、町が研修等を実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	研修で得た知識をもとに、活動においてその知識を活用している。また、他事業との類似はない。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	3会館での活動に欠かせない人材としてそれぞれ役割を担っている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	地域会館活用事業を行う地域実践委員会の構成員により選出された委員を対象としている。
平成30年度までの自己評価または改善点	従前まで講座開催のための知識や技術会得の講義などを主眼としていたが、今後は地域での自主開催を継続するための連絡調整を中心として開催する。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 各地域会館での地域活動の核となる人材を育成するための研修会等を主にしており、委託は不要と考えられる。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	個々のスキルアップのための研修のみではなく、3会館それぞれの事業全体の効率化のための情報交換を密に行う。
令和2年度以降の方向性	地域会館を活用した事業を中心に、さらに自立を促すための支援を継続していく。また会館施設の整備も考慮しつつ、3会館の事業の集約、共同開催なども検討する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6036	担当課等	社会教育課								
事務事業名	保育グループ育成事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P122 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	1 家庭教育	(1) 生涯学習推進体制の整備	① 学習機会の充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	子育て世代の学習機会を確保するため、各種研修会や町主催事業参加者の子供の預りを行う、保育グループ「エプロンママ」の会員の資質向上を図る。								
対象	保育グループ「エプロンママ」会員								
内容	町主催事業参加者の子どもの預りの委託及び会員の資質向上を目的とした保育グループ「エプロンママ」の活動支援。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	80,500	81,000	93,000		
	人件費	59,942	60,312	61,862		
	非常勤職員等					
	人件費合計	59,942	60,312	61,862		
	総事業費	140,442	141,312	154,862		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	140,442	141,312	154,862		
	財源合計	140,442	141,312	154,862		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
託児受付回数		託児による学習機会の提供	回	14	14	14
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
託児利用人数		受講者による利用	人	66	81	100

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	子育て世代が学習や住民活動等へ参加しやすくするため、町が委託事業として実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	他事業に類似はなく、講座や研修による保育グループの資質の向上ができています。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4	対象となる会議、講演会は限られているが、毎回一定の利用希望があるため、事業の有効性が保たれている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	保育の利用は、参加者であれば費用等がかからず利用できる。また、保育グループの会員は広く募集している。
平成30年度までの自己評価または改善点	会員の高齢化が進んでいる中で、会員内で声をかけあい、新会員の加入に努めている。男女共同参画講演会など他の所管で実施する講演会等でも託児の依頼を受けている。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 エプロンママに委託済み。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	申込者が、事前の連絡なく託児をキャンセルすることが多く、限られた人員の中で確保した保育要員が不要となることでモチベーション低下につながるため、申込者との連絡を密にするほか、申込方法を簡略化しより多くの方が利用できる環境を整備した。
令和2年度以降の方向性	生涯学習、家庭教育の推進において必要なため継続したい。 会員の高齢化が目立つため、新たな会員の募集育成によりニーズに対応できる人員確保に努める。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6046	担当課等	社会教育課							
事務事業名	町民大学運営事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	昭和 32 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P130 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(1) 生涯学習推進体制の整備	① 町民大学の拡充				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
				○					
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
							○		
目的	60年以上の歴史を持ち湯河原の住民の生涯学習の場として大きな魅力を持つ教養講座として学習意欲に応える。								
対象	町民、町内在勤者								
内容	各分野の専門家を講師に招き、講義形式で毎月1回(第3土曜日)の講座を開催。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	1,193,087	1,147,015	1,400,000		
	人件費					
	常勤職員	719,304	723,744	742,344		
	非常勤職員等	1,200,000	1,205,000	1,200,000		
	人件費合計	1,919,304	1,928,744	1,942,344		
	総事業費	3,112,391	3,075,759	3,342,344		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源	764,000	844,000	880,000		
	一般財源	2,348,391	2,231,759	2,462,344		
	財源合計	3,112,391	3,075,759	3,342,344		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
年間開催講義数		講座を受講できる機会	回	12	12	12
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
継続的に出席している受講生の割合		年間6回以上出席者数/受講申込者数	%	79.6	82.5	90.0

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	町民の学習意欲に応える場として、また60年以上続く講座として、町が今後も実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	他事業で幅広い年齢の対象者が継続的に学習できる事業はなく、また出席率も高い水準を維持できている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	継続して事業を行い、出席率も高い水準を維持しており、町民の学習意欲に応えることができている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	定員はあるが、広報紙やHP、町内各所で広く広報し、受講生を募集している。
平成30年度までの自己評価または改善点	受講生の受付をシステム化し、受講生の利便性向上と事務の円滑化を図った。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 町民大学運営委員による運営は、開講以来60年の歴史があり、平成28年度からは同委員会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	60年を経過し今後の継続のためにルールや内規の明確化を検討する。
令和2年度以降の方向性	運営委員会の選考による講義のほか、今後は幅広い年代の受講者に魅力のある内容の講義を模索する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6054	担当課等	社会教育課								
事務事業名	遊びと学び推進事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P130 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(2) 生涯学習内容の充実	① 多様なライフスタイルに対応した学習プログラムの作成				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	地域会館(門川・文化福祉・川堀)を活用して、地域に根ざした生涯学習の充実を図り、住民が自ら学ぶ意識の向上に努める。								
対象	町民								
内容	各地域会館の担当委員会において、各種事業(各種プレゼントづくり、体験教室、うどん・そば打ち等)の企画、運営を行っている。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	210,000	210,000	150,000		
	人件費					
	常勤職員	29,971	30,156	74,234		
	非常勤職員等	10,516	10,678	3,932		
	人件費合計	40,487	40,834	78,166		
	総事業費	250,487	250,834	228,166		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	250,487	250,834	228,166		
	財源合計	250,487	250,834	228,166		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
事業開催数		地域の自主的な実施	回	14	13	14
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
事業参加者数		地域の自主的な実施	人	197	185	200

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 身近な地域会館を活用し、年齢を問わず文化を学び楽しむ機会を幅広くつくるため、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 参加者が伸び悩んでいるが、町民が自主的に企画・運営する事業は他に類似が少なく、地域にも少しずつ認知されている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 町民が自主的に企画・運営し、また講師も町民が行うことで、主体的な学習活動が行えている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4 3つの地域会館で開催しており、宮上方面に当該組織がないが、参加にあたっては、どの会館でも分け隔てなく受講できる。

平成30年度までの自己評価または改善点	町内に3つある地域会館実践委員会との連絡を密に保ち、各講座を行っている。また、平成29年度から誰もが遊びながら学べる事業との意味から、事業名を「遊びと学び推進事業」と軟らかい表現とした。
---------------------	---

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	3会館の推進員の連携を密にし、効率的な運営を図る。
令和2年度以降の方向性	様々な方が参加したくなる講座の開催を目指す。3会館での情報交換をもとに、類似事業の共同開催や統合なども検討し、参加者の増大を図りたい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6058	担当課等	社会教育課								
事務事業名	親子陶芸教室開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P130 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	4 生涯学習	(2) 生涯学習内容の充実	① 多様なライフスタイルに対応した学習プログラムの作成				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	陶芸を通して、親子がふれあいを深めながら、自然の材料から作品ができる過程を学ぶ。								
対象	町民								
内容	町内の施設において、陶芸の専門家を講師として陶芸作品を制作する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	107,836	27,000	93,000		
	人件費					
	常勤職員	29,971	30,156	30,931		
	非常勤職員等	11,160	3,824	9,830		
	人件費合計	41,131	33,980	40,761		
	総事業費	148,967	60,980	133,761		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源	110,000	27,000	90,000		
	一般財源	38,967	33,980	43,761		
	財源合計	148,967	60,980	133,761		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
開催回数		参加のし易さ	回	6	2	5
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加者数		参加状況	人	49	9	30

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 参加者相互のコミュニケーションを図ることができ、また、気軽にものづくりができる機会を作るため、町が実施すべきである。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 参加者から参加費を徴取しているため、町費の負担は少額であり、参加者には作品が記念として残る。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 参加者は皆、制作を楽しみながら親子のコミュニケーションをとっており、事業目的に沿った効果が得られている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 町広報や小・中学校にチラシを配布するなど周知を図り、広く参加者を募っている。

平成30年度までの自己評価または改善点	より多くの親子に参加いただくため、開催回数を増やした。
---------------------	-----------------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	2	委託は可能だが、現在の予算額での委託は難しい
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	材料費の値上がりにより参加費用の見直しを行った。また、低学年の児童は陶芸に集中することが難しいため、高学年のみを対象とした。	
令和2年度以降の方向性	参加希望者のニーズを把握し、開催回数、募集人数、事業内容について見直しを行う。また、民間でも同様の教室があるのでその点も考慮しなければならない。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

平成30年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6089	担当課等	社会教育課								
事務事業名	青少年相談員設置事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(平成30年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P135 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	6 青少年健全育成	(1) 家庭・地域・学校の連携	③ 青少年相談の充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	青少年が、学校や専門機関へ相談できない事柄にやさしく対応、助言し、相談者の不安を取り除く。								
対象	青少年								
内容	2名の相談員により、青少年の非行防止と非行少年の適正措置、不登校や就学、就業等の相談受付のほか、巡回パトロール及び街頭指導、有害図書の調査・指導を行う。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	0	0	0		
	人件費					
	常勤職員					
	非常勤職員等	4,926,672	4,838,340	4,839,000		
	人件費合計	4,926,672	4,838,340	4,839,000		
	総事業費	4,926,672	4,838,340	4,839,000		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	4,926,672	4,838,340	4,839,000		
	財源合計	4,926,672	4,838,340	4,839,000		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
巡回・電話連絡等数		活動数	回	776	760	
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
補導数		相談員が巡回し、声をかけた数	人	2	0	

3 平成29年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	生きるうえでの不安に対する相談を受ける窓口は、町が主体として積極的に設置すべきであると考え
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	青少年を対象とした相談窓口は当事業しかない。また警察からの紹介で相談員を任用しているため、行政職員とは違った回答ができる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	悩みの相談窓口として、何度も相談する方がおり、相談者の不安を取り除くことができている。また、町内を巡回することで、犯罪の抑止につながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	広報紙等で周知をしている。また、特に相談の制限はなく、連絡があれば幅広い内容が相談できる。

平成30年度までの自己評価または改善点	小田原署及び神奈川県警に相談員の募集及び紹介を行った。
---------------------	-----------------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 相談員には警察から青少年を担当した経験のある方を、招いているため、委託や指定管理には馴染まない。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	教育委員会の執務室移転に伴い、社会教育課内に常駐し青少年関連業務を兼務し相談時には別室を使う体制とした。
令和2年度以降の方向性	相談員は、基本的に警察OBに依頼する。県の相談窓口などの利活用による相談室のあり方を検討する。

5 一次評価(平成31年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6093	担当課等	社会教育課								
事務事業名	成人のつどい開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P135 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	6 青少年健全育成	(1) 家庭・地域・学校の連携	(2) 青少年育成体験活動の推進				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	青年に大人としての自覚を持つよう促し、ふるさと湯河原へ集ってもらうことで郷土への関心を高める。								
対象	その年度内に新成人となる町民、または以前に湯河原に居住していたことのある新成人								
内容	対象者から実行委員を募集し、自主的に式典や記念の集いなどの企画や運営を行ってもらう。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	657,127	657,000	674,000		
	人件費					
	常勤職員	599,420	603,120	618,620		
	非常勤職員等	103,726	106,656	106,656		
	人件費合計	703,146	709,776	725,276		
	総事業費	1,360,273	1,366,776	1,399,276		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	1,360,273	1,366,776	1,399,276		
	財源合計	1,360,273	1,366,776	1,399,276		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
成人のつどい開催回数		年1回の開催	回	1	1	1
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
出席率		登録者に対する出席率	%	63	70	75

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	新成人による実行委員会の立ち上げ及び運営に必要な財源の確保は実行委員会だけでは困難である。
効率性	投入した費用に見合った効果が得られているか	5	生涯で一度の行事として当事業を行うことで、大人としての自覚を持つきっかけとなっている。
類似性	他事業との類似はないか		
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	多くの新成人が参加し、多くの方に大人になることを自覚してもらう機会を与えることができている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	住民登録のある新成人全員に案内するほか、申し出のあった登録外の新成人も参加可能。また、欠席者のうち希望者には記念品を贈呈している。
平成30年度までの自己評価または改善点	新成人へ記念品(冠婚葬祭のマナー本)を贈呈している。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	3	実行委員による自主的な企画・運営に意味があることなので、委託は不可能
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	実行委員会募集を早期に周知、組織する。	
令和2年度以降の方向性	新成人となる世代は減少傾向にあり、成人のつどいの出席率を維持したい。また成人年齢引き下げに伴う対応につき、関係団体とともにアンケートなどによる検討を行う。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6111	担当課等	社会教育課								
事務事業名	青少年健全育成地域活動推進事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P135 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	6 青少年健全育成	(1) 家庭・地域・学校の連携	① 青少年健全育成関係団体の支援				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	地域において大人と子どものふれあいを図り、青少年の健全育成につなげる。								
対象	各地区「明るい青少年を育てる会」(5地区)及び各地区「母親クラブ」(2地区)								
内容	地域活動を推進・支援するため、5地区の「明るい青少年を育てる会」及び2地区の「母親クラブ」の団体運営に対して助成を行う。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	240,000	240,000	240,000		
	人件費	29,971	30,156	30,931		
	非常勤職員等					
	人件費合計	29,971	30,156	30,931		
	総事業費	269,971	270,156	270,931		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金	120,000	120,000	120,000		
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	149,971	150,156	150,931		
	財源合計	269,971	270,156	270,931		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
助成交付団体数		関連団体全てを支援	件	7	7	7
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
助成交付団体数		申請団体全てに交付	件	7	7	7

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	ゆがわら2011プランの主要施策として明文化している事業であるため、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	各団体の総事業費に対する町の助成額は5万円未満であり、町側にかかる費用は少ないが、各団体ごとに積極的に活動している。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	各団体が、各地域の特色を生かした様々な青少年健全育成事業の実施に活用されている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	各団体に対し均等助成をしている。
平成30年度までの自己評価または改善点	特になし		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 補助金の交付のため、委託はなじまない。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし
令和2年度以降の方向性	各団体の状況を踏まえ、地域の要望を把握しつつ継続する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6115	担当課等	社会教育課								
事務事業名	親善都市子ども交流推進事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P142 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	Ⅲ 多文化共生社会の実現	3 地域間交流	(1) 地域間交流の推進	② 親善都市及び姉妹都市との交流の推進				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	町内の子どもたちが姉妹都市や親善都市の子どもたちと交流をすることにより、親睦を深め、グローバルな視野や考え方の醸成を図る。								
対象	親善都市(三原市):小学5・6年生 姉妹都市(オーストラリア、ポートステイブンス市):中学2年生								
内容	三原市とは隔年で相互訪問、ポートステイブンス市とは毎年6名の中学生と引率教諭により訪問、ホームステイし、市役所などへ表敬訪問、現地の学校への通学も行う。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	2,903,110	4,235,907	4,238,000		
	人件費					
	常勤職員	899,130	904,680	927,930		
	非常勤職員等	36,038	37,045	38,091		
	人件費合計	935,168	941,725	966,021		
	総事業費	3,838,278	5,177,632	5,204,021		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金	1,439,000	1,909,000	1,881,000		
	地方債					
	その他特定財源	24,000	224,000	474,000		
	一般財源	2,375,278	3,044,632	2,849,021		
	財源合計	3,838,278	5,177,632	5,204,021		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
交流日数		交流機会を作る	日	14	13	13
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加人数			人	40	36	36

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 町内の小・中学生が対象となり、親善都市と交流するため、町内の各学校や、親善都市の学校・行政との調整が必要となり、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 親善都市の方と交流を深めることができ、また、親善都市のことを深く知ることができている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 親善都市の児童・生徒がお互いの町を往来することで、児童同士の交流を深め、お互いを深く知ることができている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 選考は、抽選や選考試験など公平を保った方法で実施している。また、町内在住の対象年齢の方も募集している。

平成30年度までの自己評価または改善点	ポート市派遣者の選考にあたり面接に重きをおくことで語学能力より意欲、積極性や人柄を見据えた決定ができるよう配慮した。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 親善都市委員会又は行政を通しての交流であるので、委託は困難。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	現地での派遣生徒の安全性を高めるため、地域政策課で任用する現地派遣員の協力を依頼する。また現地姉妹都市委員会の負担軽減のため、シドニー～ポートスティーブンス間の往復について貸切車両による移動とし、行程も1日削減する。
令和2年度以降の方向性	ポートスティーブンス市との連絡を密に行い、各学校の実情や関係機関と協議しながら、今後の交流在り方などを検討しつつ事業を継続する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

ポートスティーブンス市との相互派遣交流では、今後の方向性についてもしっかりと検討する必要がある。
--

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6149	担当課等	社会教育課								
事務事業名	放課後児童健全育成事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P135 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	6 青少年健全育成	(1) 家庭・地域・学校の連携	④ 学童保育・放課後子ども教室の充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	放課後及び学校休業中に保護者等の適切な保護を受けることができない小学生の安全な居場所を確保する。								
対象	町内の小学生								
内容	町内3小学校に在籍する児童を対象に、3小学校内において学童保育を実施。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	7,961,571	7,678,964	58,837,000		
	人件費	7,283,000	7,328,000	3,712,000		
	非常勤職員等	33,571,651	36,380,589	22,986,000		
	人件費合計	40,854,651	43,708,589	26,698,000		
	総事業費	48,816,222	51,387,553	85,535,000		
財源内訳	国庫支出金	7,114,000	6,991,000	11,763,000		
	県支出金	7,114,000	6,991,000	11,763,000		
	地方債					
	その他特定財源	22,968,000	22,943,000	27,166,000		
	一般財源	11,620,222	14,462,553	34,843,000		
	財源合計	48,816,222	51,387,553	85,535,000		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
学童保育所運営日数		1年間の開所日数	日	293	288	290
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
希望者入所率		入所者数/入所申請者数×100	%	100	100	100

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	4 児童福祉法で、町は、放課後児童健全育成事業の実施に努めなければならないと規定されているため、町が実施する必要があると考えるが、指定管理や外部委託は検討の余地がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 他事業で類似するものがない。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 入所希望している児童が待機せず、すべて入所でき、適切な保護を受けられている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 申請にあたり条件はなく、申請後は運営委員会による審査会において選考している。
平成30年度までの自己評価または改善点	年々増加する入所児童に対して、小学校に協議し使用教室数を1増とした。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	1 近隣市町村において民間事業者への委託実績がある。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	より安全な居場所として運営するため、民間事業者への委託についてプロポーザルを実施し、事業者を選定し、10月から運営委託を実施する。
令和2年度以降の方向性	民間事業者への運営委託後も、学校や支援員との連携は継続することで、子ども達にとって安全な居場所の確保を目指す。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6181	担当課等	社会教育課								
事務事業名	青少年リーダー養成事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P135 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	6 青少年健全育成	(2) 地域指導者の育成・支援	② 次世代地域指導者の養成				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	地域における指導者として役割が増えている青少年リーダーに対し、指導者としての技術や知識の習得を図る。将来の地域活動の核となる人材として育成を図る。								
対象	町内在住・在学中、ジュニアリーダーは中学生及び高校生、シニアリーダーは高校生を除く18歳以上の者								
内容	地域や町行事に際し、育成者や大人と子どもとのパイプ役を担い、社会貢献を行うための事業を「子ども会育成連絡協議会」へ委託し、各種研修に参加のうえ、行事の企画・運営の能力を修める。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	80,000	80,000	80,000	
コスト 人件費	常勤職員	59,942	60,312	61,862	
	非常勤職員等	7,208	7,409	7,618	
	人件費合計	67,150	67,721	69,480	
総事業費	147,150	147,721	149,480		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金	40,000	40,000	40,000	
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	107,150	107,721	109,480	
財源合計	147,150	147,721	149,480		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
研修会数	研修機会の提供	回	1	1	1
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
リーダーの参加行事数	指導者としての行事参加回数	回	12	12	12

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 各行事の運営や、将来のまちづくりのためにも、青少年リーダーの人材育成は町が行うべき事業である。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 青少年リーダーが各行事に参加することで、行事がスムーズに行えている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 研修の成果を、大人よりも近い立場で発揮することで、子どもたちの育成にもつながっている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 会員は広報紙等で広く募集をしている。

平成30年度までの自己評価または改善点	レジャーの多様化など、従来の住民参加型行事が少なくなるなか、児童と年齢が近く適切な指導ができるリーダーの需要は変わらないので、人員の確保を強化していきたい。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原町子ども会育成団体連絡協議会に委託済み。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし。
令和2年度以降の方向性	将来のまちを担うキーパーソンとなりうる人材育成は必須であるため継続する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6185	担当課等	社会教育課								
事務事業名	青少年地域体験活動支援事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P135 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	6 青少年健全育成	(1) 家庭・地域・学校の連携	(2) 青少年育成体験活動の推進				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	自然との共存や生きた総合学習を集団活動を通して学び、また創作芸術活動や体力向上・健康増進を図るスポーツ活動の推進を図るとともに、家庭におけるふれあいを促進・支援し、地域のつながり強化につなげる。								
対象	・湯河原町子ども会育成団体連絡協議会 ・湯河原町青少年指導員会								
内容	地域の各団体における各種体験活動を推進・支援するための事業を、関係団体に委託して実施するもの。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	370,000	515,000	1,680,000	
コスト 人件費	常勤職員	899,130	60,312	61,862	
	非常勤職員等	36,038	37,045	38,091	
	人件費合計	935,168	97,357	99,953	
総事業費	1,305,168	612,357	1,779,953		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金	160,000	257,000	215,000	
	地方債				
	その他特定財源	16,800			
	一般財源	1,128,368	355,357	1,564,953	
財源合計	1,305,168	612,357	1,779,953		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
支援行事数	幅広い事業を支援する	回	4	3	4
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加者数	体験活動の直接効果	人	420	367	450

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 家庭におけるふれあいの促進、支援を継続的に支援する将来のまちづくり、青少年育成を担う人材育成は、町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 各行事の運営を委託することで、安価に、またスムーズに運営が行えている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5 事業実施にあたっては、委託先団体の知識や連携を活かすことで多くの青少年の参加を実現している。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 事業実施にあたっては、広く町内全域に参加者を呼びかけている。

平成30年度までの自己評価または改善点	児童の数が年々減っているなかで、各団体の地道な活動により継続的な事業して実施されている。
---------------------	--

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 湯河原町子ども会育成団体連絡協議会及び湯河原町青少年指導員会へ委託済み
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	子ども会に委託実施している砂の芸術大会は30回の記念大会となるため、記念品の配布や記念事業の実施経費を計上し、子ども会活動の活発化を図る。
令和2年度以降の方向性	今後も参加者の確保策を講じ、継続して実施する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6189	担当課等	社会教育課								
事務事業名	放課後子ども教室推進事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	07	目	02	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P135 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	6 青少年健全育成	(1) 家庭・地域・学校の連携	④ 学童保育・放課後子ども教室の充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	小学校の余裕教室を利用して、地域の大人の協力を得て子どもたちの活動拠点(居場所)を確保し、様々な体験活動や地域住民との交流等を支援する。								
対象	町内の小学生								
内容	活動推進員やサポーターを配置した上で、湯河原小学校で児童の自主的な学びの場として「まなび教室」を、東台福浦小学校で放課後の安全な居場所として「そよかぜ教室」を行い、平成230年10月から吉浜小学校で「JUMP」を開催した。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	2,962,932	3,449,748	4,952,000	
コスト 人件費	常勤職員				
	非常勤職員等	1,200,000	1,025,000	1,200,000	
	人件費合計	1,200,000	1,025,000	1,200,000	
総事業費	4,162,932	4,474,748	6,152,000		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金	1,511,000	1,665,000	2,664,000	
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	2,651,932	2,809,748	3,488,000	
財源合計	4,162,932	4,474,748	6,152,000		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
実施箇所数	教室の数	箇所	2	3	3
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
登録児童数	3教室の登録数	人	125	125	150

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	子どもたちと地域住民とをつなぐパイプ役として町が実施する必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	学校とは違った体験や交流活動を行うことができている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	それぞれの教室で参加している子どもたちに、体験活動や交流、居場所作りの機会を与えることができおり、その中で子どもたちが成長している。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	現在、吉浜小学校には放課後子ども教室がないため、湯河原小と東台小の2校のみとなっている。
平成30年度までの自己評価または改善点	各教室について、それぞれのカリキュラムに応じたコーディネーター、サポーターの協力により円滑な運営ができています。また湯小ではプログラミング学習、吉小では英語に親しむ学習、東台小では昔遊びの習得など、特色を生かしたカリキュラムにより実施されている。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	2 地域の人材を活用した子どもへの学習機会の提供の場であり、委託の必要性は低いと考えられる。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	吉浜小学校において開室したJUMPでは低学年向けの教室を開始し、3校で全学年受け入れの体制が整った。
令和2年度以降の方向性	学童保育との連携、一体化に向けて、検討が必要。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6483	担当課等	社会教育課							
事務事業名	湯河原温泉オレンジマラソン開催事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	08	目	01	事業開始年度	平成 2 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P133 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	5 スポーツ	(2) スポーツ活動の支援	(3) スポーツ教室、イベントの開催				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	健康増進及び体力向上を図るほか、大会を通じて仲間との触れ合いを大切にし、観光客が減少する時期に開催し、町に再度訪れてもらう機会を提供することにより、観光客の増加にも資する。								
対象	小学1年以上の方								
内容	3km、5km、10km、大人と子どもで3kmを走るファミリー、ペアの年齢合計が100歳以上で走るペア3kmの各種目の選手が、同時スタートで走る。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	10,009,424	9,762,516	11,361,000		
	人件費	2,397,680	2,412,480	2,474,480		
	非常勤職員等	88,908	91,419	91,419		
	人件費合計	2,486,588	2,503,899	2,565,899		
総事業費		12,496,012	12,266,415	13,926,899		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源	8,933,800	9,309,800	10,215,000		
	一般財源	3,562,212	2,956,615	3,711,899		
財源合計		12,496,012	12,266,415	13,926,899		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
申込者数		大会認知度及び普及目安	人・組	3,016	3,105	3,100
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
宿泊パック利用者数		観光客の誘客	人	138	118	150

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	関係機関をはじめ、協力各方面への依頼は行政でなければならない。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	毎回3,000人を超える応募があり、北海道など遠隔地からの参加者もいる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	参加者は、無料入浴による湯河原温泉の体験のほか、町内の観光や土産物を購入している。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	参加賞のほか、上位入賞者へ賞品が用意されている。また希望者へ無料入浴券を配布しており、温泉風呂に入ることもできる。
平成30年度までの自己評価または改善点	平成20年度予算から町直営とした。 毎回、実行委員の属する各組織から問題点など意見を徴し、次回に対応することにより、大会の運営や参加者へのサービス向上につなげている。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)			
委託・指定管理導入の可能性	3	過去には実行委員会へ委託していたが、金銭の適正な運用と透明化のため、町直営とした経緯があり、大会全てを委託に出すことは、大きな混乱も予想され不可能と考える。	
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	実行委員会で提案された意見に対応している。		
令和2年度以降の方向性	現状維持		

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6525	担当課等	社会教育課								
事務事業名	湯河原町体育協会補助金										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	08	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P133 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	5 スポーツ	(2) スポーツ活動の支援	① スポーツ活動の支援				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	協会を組織する各部は活発な活動を行っており、スポーツ少年団の育成も町のスポーツ振興に大きく貢献している。また、町スポーツ行事では、企画・立案・運営と中心的な役割を担っており、それらの実績を踏まえ補助を行い、結果、各行事を通して町民の体力向上、健康増進を図る。								
対象	湯河原町体育協会								
内容	各部の人数、活動実績に応じて補助を行う。								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費	2,000,000	2,000,000	2,000,000	
コスト 人件費	常勤職員	59,942	60,312	61,862	
	非常勤職員等				
	人件費合計	59,942	60,312	61,862	
総事業費	2,059,942	2,060,312	2,061,862		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他特定財源				
	一般財源	2,059,942	2,060,312	2,061,862	
財源合計	2,059,942	2,060,312	2,061,862		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
開催大会数		回	9	8	10
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加者数	体力・技術の向上、健康増進	人	609	620	700

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	町民の体力向上と健康増進を図るなど、スポーツに親しむことが重要。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	スポーツ行事への企画・運営に参加している。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	町民レクリエーションの集い、湯河原温泉オレンジマラソンなど職員だけでは対応できない行事に協力をいただいている。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	4	各競技部の人数、活動に応じ配分している。
平成30年度までの自己評価または改善点	活動する部数や部員の人数に合わせ、補助額を按分しているが、部員数の減少や部員の固定化・高齢化が進んでいる。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 補助金の交付という性格上、委託や指定管理には馴染まない。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし。
令和2年度以降の方向性	各部の活動や構成員の状況を確認しつつ、その状況に見合った形で事業を進める。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6529	担当課等	社会教育課								
事務事業名	スポーツ振興助成事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	08	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P133 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	5 スポーツ	(2) スポーツ活動の支援	① スポーツ活動の支援				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	スポーツの優秀選手及び団体の活動を助成し、町民のスポーツの振興を図る。								
対象	町民								
内容	町の社会体育の振興を図るため、県予選を経て関東及び全国大会やそれに準ずる大会等に出場した選手に対し、大会参加に要す経費の一部を助成する。 また、経費のかからない選手については、出場祝金として支給する。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	65,000	80,000	80,000		
	人件費	46,407	58,366	63,856		
	非常勤職員等					
	人件費合計	46,407	58,366	63,856		
	総事業費	111,407	138,366	143,856		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	111,407	138,366	143,856		
	財源合計	111,407	138,366	143,856		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
交付件数		交付実績	件	12	15	16
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
出場大会数		町のスポーツの振興	大会数	12	15	16

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	5 各種大会への参加にあたっては、競技種目、大会開催地等によって必要となる経費が異なるが、その一部を助成することにより、負担の軽減が図られる。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4 助成金の交付は負担の軽減となり、また、選手の励みにもなる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 出場選手(または団体)の負担軽減に寄与している。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 交付基準を満たしているかの審査を行い交付決定している。
平成30年度までの自己評価または改善点	平成21年度に1大会あたりの個人への助成金額を10,000円から5,000円に減額。 平成22年度に1大会あたりの団体への助成金額を30,000円から10,000円に減額。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 審査にあたり、個人情報を含むため。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし
令和2年度以降の方向性	必要に応じて助成金額の見直しを行う。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6533	担当課等	社会教育課								
事務事業名	町民レクリエーションの集い開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	08	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P133 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	5 スポーツ	(2) スポーツ活動の支援	② スポーツ・レクリエーションの場づくり				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	誰でも参加できる行事とし、住民の健康・体力の増進のほか、住民相互の親睦や異世代間の交流を行う。								
対象	町民								
内容	町内の各区(奥湯河原区は温泉場区と合同)や、会場に来られた方々がスポーツレクリエーションを体験し、体を動かすことの大切さや爽快感を感じ、各自の体力や健康の増進につなげる。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	898,436	1,603,245	1,512,000		
	人件費	1,798,260	1,809,360	1,855,860		
	非常勤職員等	59,272	60,946	60,946		
	人件費合計	1,857,532	1,870,306	1,916,806		
	総事業費	2,755,968	3,473,551	3,428,806		
財源内訳	国庫支出金	449,218	801,622	756,000		
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	2,306,750	2,671,929	2,672,806		
	財源合計	2,755,968	3,473,551	3,428,806		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
参加者数		参加延べ人数	人	2,000	2,000	2,000
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
競技参加者数		競技参加者の延べ人数	人	1,800	1,800	1,800

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	以前は町民運動会として開催していた事業内容を、競技性を抑え、誰もが参加しやすい行事としたため。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5	目標値や効率を追求するものではなく、町民多くの参加者に、よりスポーツに慣れ親しんでもらうもの。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	昼休みに行う介護体操(ズンドコ体操)など、体を動かすことへの関心を喚起している。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	多くの方々に参加いただいている。
平成30年度までの自己評価または改善点	開催場所を湯河原総合運動公園から、より交通の便のよい湯河原町民グラウンドに変更した。その後の施設売却に伴い現湯河原中学校グラウンドでの開催が決定した。		

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	1 平成20年度以前は実行委員会へ委託していたが、事業執行の適正化及び透明化のため町直営とした。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	・実行委員会や各区から上げられた意見に対応し、問題点の解決を図っている。 ・施設売却に伴い、開催場所を現湯河原中学校グラウンドに変更し、令和元年度も湯河原中学校グラウンドで開催予定。
令和2年度以降の方向性	前回の反省点の改善を行い、競技種目がマンネリ化しないよう検討し、より多くの方々に参加いただける行事を目指す。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6558	担当課等	社会教育課								
事務事業名	各種大会開催事業										
予算科目コード	会計	01	款	09	項	08	目	01	事業開始年度	平成	年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P133 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	5 スポーツ	(2) スポーツ活動の支援	(3) スポーツ教室、イベントの開催				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	子どもから高齢者まで楽しめるスポーツ大会等を開催し、町民の健康増進、体力の向上、参加者相互のコミュニティ形成等を図る。								
対象	町民								
内容	町が主催する各種スポーツ大会等を各種団体に委託して開催するもの。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	353,944	309,347	313,000		
	人件費	1,198,840	1,206,240	1,237,240		
	非常勤職員等					
	人件費合計	1,198,840	1,206,240	1,237,240		
	総事業費	1,552,784	1,515,587	1,550,240		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源	55,800	65,600	74,000		
	一般財源	1,496,984	1,449,987	1,476,240		
	財源合計	1,552,784	1,515,587	1,550,240		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
開催大会数		開催実績	回	8	8	8
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
競技参加者数		大会開催の効果	人	645	615	650

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)		
必要性	町が実施する必要があるのか	3 運営を体育協会等に委託しているが、運営団体自らが企画・運営できると判断した事業については、独自開催へ移行する。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	5 町費の負担は少額であるが、参加者の満足度は高いと感じられる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	4 毎年同時期に開催される各大会での成績を目標とするだけでなく、参加することを楽しみとしている町民が多くおり、スポーツ振興以外の効果もあると思われる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5 主に町民を対象とした大会等であり、参加が容易である。
平成30年度までの自己評価または改善点	平成27年度に、大会の種目をソフトバレーボールから、スポーツ推進委員会が普及促進しているファミリーバドミントンに変更した。	

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)		
委託・指定管理導入の可能性	9	体育協会、スポーツ推進委員に委託済み。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし。	
令和2年度以降の方向性	大会等の参加者数、チーム数の増減を考慮し、大会継続の必要性を検証するとともに、町民のニーズに合わせた新たな大会、レクリエーション等の開催についても検討する。	

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	6562	担当課等	社会教育課							
事務事業名	夏季プール開放事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	08	目	01	事業開始年度	平成 14 年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P133 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	5 スポーツ	(2) スポーツ活動の支援	② スポーツ・レクリエーションの場づくり				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	福浦海浜プールの廃止に伴い、東台福浦小学校プールを地域の児童及び中学生以下の生徒に開放するもの。								
対象	中学生以下の児童、生徒								
内容	東台福浦小学校プールを夏休みの一定期間(平成22年度からは9日間、令和元年度は6日間)地域の児童及び中学生以下の生徒達に開放するもの。								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費	705,782	728,200	542,000		
	人件費	135,353	136,188	139,688		
	非常勤職員等					
	人件費合計	135,353	136,188	139,688		
	総事業費	841,135	864,388	681,688		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	841,135	864,388	681,688		
	財源合計	841,135	864,388	681,688		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
開放日数		ニーズに合わせた開放期間	日	9	9	6
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
入場者数		利用者状況	人	109	125	90

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	廃止された福浦海浜プールの代替施設の役割を担う必要性がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	3	平成30年度において、人件費を除いた開放日1日当たりの事業費が80,911円、入場者1人当たりの事業費が5,826円かかっている。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	3	多くの東台福浦小学校児童が利用していることから、廃止された福浦海浜プールの代替施設の役割を果たしていると思われる。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	中学生以下の者は全員入場可能であり、幼児の同行であれば大人でも入場が可能である。

平成30年度までの自己評価または改善点	利用者数は天候に左右されるが、一定の需要があるものと判断している。
---------------------	-----------------------------------

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	9 入札により執行している。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	特になし。
令和2年度以降の方向性	地域のニーズに合わせた開放日数の調整を行っていききたい。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)
------	----------

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	7978	担当課等	社会教育課							
事務事業名	町民体育館駐車場整備事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	08	目	03	事業開始年度	令和元年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P133 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	5 スポーツ	(1) スポーツ活動の充実	① スポーツ施設の利用促進・運営充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	当該駐車場は、未舗装のため、ぬかるみや水たまりが生じ、利用者に不便を付けていたこと及び強風時には、砂塵が舞い、近隣の住民に迷惑をかけていたことから舗装整備を行うもの。								
対象	町民体育館及び防災コミュニティセンター利用者								
内容	土工事 一式 舗装工事 一式 付帯工事 目隠しフェンス、街灯、テレビカメラ設置、排水工事								

2 実施結果

(単位 円)

区分	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
	事業費			49,753,000	
コスト 人件費	常勤職員		680,482		
	非常勤職員等				
	人件費合計	0	0	680,482	
総事業費	0	0	50,433,482		
財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債		37,300,000		
	その他特定財源		12,453,000		
	一般財源	0	0	680,482	
財源合計	0	0	50,433,482		
活動指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
成果指標	指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	町が所有する施設であり、施設利用者の利便を図るため。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	有料駐車場であるが、町民体育館及び防災コミュニティセンター利用者は無料にする予定である。施設利用者を無料とすることにより利便を図ることができる。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	未完なため、利用実績はないが、水たまり等の解消や砂塵の舞いを防止することができるため、目的に対する成果は得られると考える。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	駐車利用のみでは有料となるが、施設利用者は無料となる予定で、受益の機会は均等であると考えている。
平成30年度までの自己評価または改善点			

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既の実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 施設工事であるため。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	実施設計に基づき、工事を実施する。
令和2年度以降の方向性	適切な管理運営を図る。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	完了	令和元年度完了予定
------	----	-----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	完了
------	----

令和元年度事務事業評価シート

令和元年6月 日作成

事業番号	7814	担当課等	社会教育課							
事務事業名	弓道場整備事業									
予算科目コード	会計	01	款	09	項	08	目	03	事業開始年度	令和元年度

1 事業概要(令和元年度)

総合計画との関係	基本目標	政策	分野	主要施策	細施策				
P133 ゆがわら2011プラン 後期基本計画	4 生涯を通じて学び豊かな心を育むまちづくり	I 生涯学習の推進	5 スポーツ	(1) スポーツ活動の充実	① スポーツ施設の利用促進・運営充実				
関連する個別計画									
SDGsとの関連	1貧困	2飢餓	3保健	4教育	5ジェンダー	6水・衛生	7エネルギー	8経済成長と雇用	9インフラ等
	10不平等	11都市	12生産と消費	13気候変動	14海洋資源	15陸上資源	16平和	17実行手段	該当なし
目的	中学校移転のため廃止となった弓道場を湯河原総合運動公園内に設置するもの。								
対象	弓道競技者及び弓道場利用者								
内容	和弓近的弓道場(28m) 射場(5人立ち)、的場(5的)、防矢ネット ほか								

2 実施結果

(単位 円)

区分		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(見込)		
コスト	事業費			12,000,000		
	人件費			680,482		
	常勤職員					
	非常勤職員等					
	人件費合計	0	0	680,482		
	総事業費	0	0	12,680,482		
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
	一般財源	0	0	12,680,482		
	財源合計	0	0	12,680,482		
活動指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値
成果指標		指標設定の理由・考え方	単位	平成29年度	平成30年度	目標値

3 平成30年度までの事業分析及び改善点

評価 5段階とその理由を記入(5:高い 4:やや高い 3:普通 2:やや低い 1:低い)			
必要性	町が実施する必要があるのか	5	中学校移転に伴い廃止されたものであり、数年間整備されていなかったため、整備をする必要がある。
効率性 類似性	投入した費用に見合った効果が得られているか 他事業との類似はないか	4	利用に際しては有料とする予定であり、利用者の利便を図るため、利用しやすい使用料とする。
有効性	事業の目的に対して成果が得られているか	5	未完なため、利用実績はないが、目的に対する成果は得られると考える。
公平性	事業の目的に対して受益の機会が均等か	5	市内の利用のみならず、他市町村の競技者も利用でき、有料とする予定なので、受益者負担の原則に基づき受益の機会が均等であると考え。
平成30年度までの自己評価または改善点			

4 見直し及び改善

評価 4区分とその理由を記入(1:可能 2:どちらともいえない 3:不可能 9:既に実施済み)	
委託・指定管理導入の可能性	3 施設工事であるため。
令和元年度の見直し及び改善(実績または予定)	実施設計に基づき、工事を実施する。
令和2年度以降の方向性	利用の促進を図るためチラシを作成し、弓道教室等が開催できるように初心者の用具を整備する。

5 一次評価(令和2年度以降の方向性に対する評価)

総合評価	継続(現状維持)	令和2年度完了予定
------	----------	-----------

6 財政・計画推進の視点からの所見(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

特になし

7 二次評価(※各課等は記入不要です。空欄のまま提出してください。)

総合評価	継続(現状維持)	
------	----------	--